Also available daily on the internet!!
http://qt.swim.org/user_dir/japanlife/user_print_web.php

Devotional Guide

ディーヴォ ガイド

Nagoya Glorious Chapel

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

Family Worship

セル　ガイド

①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合いましょう。
③ディボーションの分かち合いをします。
④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。 いつもの家族でいいのです。

①この１週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
②この１週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）１つだけ。
③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
④互いの必要のために祈りましょう。

Cell Group Guide

L T G Guide

2023.7.31-8.6

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen.　II Peter 3:18

ＬＴＧ ガイド

①お互いへの感謝と誉めることを分かち合いましょう。（２～３つ）

②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。

③礼拝メッセージの分かち合いをします。
　礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）

④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

Nagoya Glorious Chapel

31日 月曜

使徒

16:19 彼女の主人たちは、金儲けする望み
がなくなったのを見て、パウロとシラスを捕
らえ、広場の役人たちのところに引き立てて
行った。
16:20 そして、二人を長官たちの前に引き出
して言った。「この者たちはユダヤ人で、私
たちの町をかき乱し、
16:21 ローマ人である私たちが、受け入れる
ことも行うことも許されていない風習を宣伝
しております。」
16:22 群衆も二人に反対して立ったので、長
官たちは、彼らの衣をはぎ取ってむちで打つ
ように命じた。
16:23 そして何度もむちで打たせてから二人
を牢に入れ、看守に厳重に見張るように命じ
た。
16:24 この命令を受けた看守は、二人を奥の
牢に入れ、足には木の足かせをはめた。
16:25 真夜中ごろ、パウロとシラスは祈りつ
つ、神を賛美する歌を歌っていた。ほかの囚
人たちはそれに聞き入っていた。
16:26 すると突然、大きな地震が起こり、牢
獄の土台が揺れ動き、たちまち扉が全部開い
て、すべての囚人の鎖が外れてしまった。
16:27 目を覚ました看守は、牢の扉が開いて
いるのを見て、囚人たちが逃げてしまったも
のと思い、剣を抜いて自殺しようとした。
16:28 パウロは大声で「自害してはいけない。
私たちはみなここにいる」と叫んだ。
16:29 看守は明かりを求めてから、牢の中に
駆け込み、震えながらパウロとシラスの前に
ひれ伏した。
16:30 そして二人を外に連れ出して、「先生
方。救われるためには、何をしなければな
りませんか」と言った。
16:31 二人は言った。「主イエスを信じなさ
い。そうすれば、あなたもあなたの家族も
救われます。」
16:32 そして、彼と彼の家にいる者全員に、
主のことばを語った。
16:33 看守はその夜、時を移さず二人を引き
取り、打ち傷を洗った。そして、彼とその
家の者全員が、すぐにバプテスマを受けた。
16:34 それから二人を家に案内して、食事の
もてなしをし、神を信じたことを全家族と
ともに心から喜んだ。
16:35 夜が明けると、長官たちは警吏たちを
遣わして、「あの者たちを釈放せよ」と
言った。
16:36 そこで、看守はこのことばをパウロに
伝えて、「長官たちが、あなたがたを釈放
するようにと、使いをよこしました。さあ
牢を出て、安心してお行きください」と
言った。
16:37 しかし、パウロは警吏たちに言った。
「長官たちは、ローマ市民である私たちを、
有罪判決を受けていないのに公衆の前でむ
ち打ち、牢に入れました。それなのに、今
ひそかに私たちを去らせるのですか。それ
はいけない。彼ら自身が来て、私たちを外
に出すべきです。」
16:38 警吏たちは、このことばを長官たちに
報告した。すると長官たちは、二人がロー
マ市民であると聞いて恐れ、
16:39 自分たちで出向いて来て、二人をなだ
めた。そして牢から外に出し、町から立ち
去るように頼んだ。
16:40 牢を出た二人はリディアの家に行った。
そして兄弟たちに会い、彼らを励まして
から立ち去った。

Bible Reference 聖書の記述

ここに「神を信じたことを全家族とともに心から喜んだ。」とあります。伝道の結果は、必ずしも家族から孤立して救われるのだと限らないのです。救われるプロセスの中で家族を大切にし、その絆を壊さないように指導することも大切です。家族に反対者がいる場合は、その人を頭から敵と決め付けないで”主に愛されている人”として接することも大切です。

ただし救われた人が家族から悪霊的、反キリスト的な妨げを受けている場合は、それらから守る必要もあります。その場合は必要ならば、毅然とした対応も必要になります。

パウロはローマ市民であることの権利を正当に主張しました。クリスチャンは自分を偉いものとする必要がありません。主が引き上げてくださるからです。しかし、主の群れのためにその正当な防衛や権限を用いることは一向に差し支えありません。それらもまた主が与えてくださった現実の賜物なのです。

大切なのは主の目的のために、主から与えられたものとして用いることです。私たちには、立場や特権など多くの力が与えられていますが、へりくだりつつ、主のために活かしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

1日 火曜

使徒

Bible Reference 聖書の記述

17:1 パウロとシラスは、アンピポリスとア
ポロニアを通って、テサロニケに行った。そ
こにはユダヤ人の会堂があった。
17:2 パウロは、いつものように人々のところ
に入って行き、三回の安息日にわたって、聖
書に基づいて彼らと論じ合った。
17:3 そして、「キリストは苦しみを受け、死
者の中からよみがえらなければならなかった
のです。私があなたがたに宣べ伝えている、
このイエスこそキリストです」と説明し、ま
た論証した。
17:4 彼らのうちのある者たちは納得して、パ
ウロとシラスに従った。神を敬う大勢のギリ
シア人たちや、かなりの数の有力な婦人たち
も同様であった。
17:5 ところが、ユダヤ人たちはねたみに駆ら
れ、広場にいるならず者たちを集め、暴動を
起こして町を混乱させた。そしてヤソンの家
を襲い、二人を捜して集まった会衆の前に引
き出そうとした。
17:6 しかし、二人が見つからないので、ヤソ
ンと兄弟たち何人かを町の役人たちのところ
に引いて行き、大声で言った。「世界中を騒
がせてきた者たちが、ここにも来ています。
17:7 ヤソンが家に迎え入れたのです。彼らは
みな、『イエスという別の王がいる』と言っ
て、カエサルの詔勅に背く行いをしていま
す。」
17:8 これを聞いた群衆と町の役人たちは動揺
した。
17:9 役人たちは、ヤソンとほかの者たちから
保証金を取ったうえで釈放した。
17:10 兄弟たちはすぐ、夜のうちにパウロと
シラスをベレアに送り出した。そこに着く
と、二人はユダヤ人の会堂に入って行った。
17:11 この町のユダヤ人は、テサロニケにい
る者たちよりも素直で、非常に熱心にみこ
とばを受け入れ、はたしてそのとおりかど
うか、毎日聖書を調べた。
17:12 それで彼らのうちの多くの人たちが信
じた。また、ギリシアの貴婦人たち、そし
て男たちも少なからず信じた。
17:13 ところが、テサロニケのユダヤ人たち
が、ベレアでもパウロによって神のことば
が伝えられていることを知り、そこにも
やって来て、群衆を扇動して騒ぎを起こし
た。
17:14 そこで兄弟たちは、すぐにパウロを送
り出して海岸まで行かせたが、シラスとテ
モテはベレアにとどまった。
17:15 パウロを案内した人たちは、彼をアテ
ネまで連れて行った。そして、できるだけ
早く彼のところに来るようにという、シラ
スとテモテに対する指示を受けて、その人
たちは帰途についた。

「パウロはいつもしているように…」とありますから、彼の伝道はライフスタイルになっていました。伝道旅行ですから当たり前のようですが、常に生活が変わるのですから、いつも同じようにするのは大変なことです。それでもいつものような信仰生活を続けたところに主のみわざが表されました。私たちも伝道が日常であるような者となりましょう。

福音を聞いた者の反応は様々で、ここでは素直に信じた人々、ねたみにかられて妨害する人々、妨害のことばによって不安にかられる人々がいました。それは現代も同じで、人々を永遠の命から遠ざけようとする反キリストの霊があり、それに影響される世の人々がいるのです。

妨害にいちいちひるんでいては福音は広がりません。「愛には恐れがない」とありますから、滅びに向かう人々への愛を増し加えていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

2日 水曜

使徒

聖書の記述

17:16 さて、パウロはアテネで二人を待っ
ていたが、町が偶像でいっぱいなのを見て、
心に憤りを覚えた。
17:17 それでパウロは、会堂ではユダヤ人た
ちや神を敬う人たちと論じ、広場ではそこに
居合わせた人たちと毎日論じ合った。
17:18 エピクロス派とストア派の哲学者たち
も何人か、パウロと議論していたが、ある者
たちは「このおしゃべりは、何が言いたいの
か」と言い、ほかの者たちは「彼は他国の
神々の宣伝者のようだ」と言った。パウロが、
イエスと復活を宣べ伝えていたからである。
17:19 そこで彼らは、パウロをアレオパゴス
に連れて行き、こう言った。「あなたが語っ
ているその新しい教えがどんなものか、知る
ことができるでしょうか。
17:20 私たちには耳慣れないことを聞かせて
くださるので、それがいったいどんなことな
のか、知りたいのです。」
17:21 アテネ人も、そこに滞在する他国人も
みな、何か新しいことを話したり聞いたりす
ることだけで、日を過ごしていた。
17:22 パウロは、アレオパゴスの中央に立っ
て言った。「アテネの人たち。あなたがたは、
あらゆる点で宗教心にあつい方々だと、私は
見ております。
17:23 道を通りながら、あなたがたの拝むも
のをよく見ているうちに、『知られていない
神に』と刻まれた祭壇があるのを見つけたか
らです。そこで、あなたがたが知らずに拝ん
でいるもの、それを教えましょう。
17:24 この世界とその中にあるすべてのもの
をお造りになった神は、天地の主ですから、
手で造られた宮にお住みにはなりません。
17:25 また、何かが足りないかのように、人
の手によって仕えられる必要もありません。
神ご自身がすべての人に、いのちと息と万
物を与えておられるのですから。
17:26 神は、一人の人からあらゆる民を造り
出して、地の全面に住まわせ、それぞれに
決められた時代と、住まいの境をお定めに
なりました。
17:27 それは、神を求めさせるためです。も
し人が手探りで求めることがあれば、神を
見出すこともあるでしょう。確かに、神は
私たち一人ひとりから遠く離れてはおられ
ません。
17:28 『私たちは神の中に生き、動き、存在
している』のです。あなたがたのうちのあ
る詩人たちも、『私たちもまた、その子孫
である』と言ったとおりです。
17:29 そのように私たちは神の子孫ですから、
神である方を金や銀や石、人間の技術や考
えで造ったものと同じであると、考えるべ
きではありません。
17:30 神はそのような無知の時代を見過ごし
ておられましたが、今はどこででも、すべ
ての人に悔い改めを命じておられます。
17:31 なぜなら、神は日を定めて、お立てに
なった一人の方により、義をもってこの世
界をさばこうとしておられるからです。神
はこの方を死者の中からよみがえらせて、
その確証をすべての人にお与えになったの
です。」

アテネは哲学の町であるとともに、ギリシャ神話の偶像の町でもありました。たくさんの話題がありましたがどれも心を満たすものではなく、何か新しい情報や教えを求めていたのです。現代と同じ心の状態と言えるでしょう。

パウロの切り出し方は興味深いものでした。「あなたがたが知らずに拝んでいるものを、教えましょう」というのです。もしかしたらある種のクリスチャンは「偶像とイエス様を混同している」と批判するかもしれません。

パウロは彼らの宗教心に宣教の可能性を見出し、また利用しながら対話的に宣教したのです。これは現代でも有用な宣教です。断罪しながら宣教する必要はありません。誰のたましいも造り主である方を求めているのですから、その求めに対して本当の神を紹介することも可能なのです。自分に与えられた賜物を生かして伝道するにはどうしたらよいかを考えてみるのも良いでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

3日 木曜

使徒

17:32 死者の復活のことを聞くと、ある人
たちはあざ笑ったが、ほかの人たちは「その
ことについては、もう一度聞くことにしよ
う」と言った。
17:33 こうして、パウロは彼らの中から出て
行った。
17:34 ある人々は彼につき従い、信仰に入っ
た。その中には、アレオパゴスの裁判官ディ
オヌシオ、ダマリスという名の女の人、その
ほかの人たちもいた。
18:1 その後、パウロはアテネを去ってコリ
ントに行った。
18:2 そこで、ポントス生まれでアキラという
名のユダヤ人と、彼の妻プリスキラに出会っ
た。クラウディウス帝が、すべてのユダヤ人
をローマから退去させるように命じたので、
最近イタリアから来ていたのである。パウロ
は二人のところに行き、
18:3 自分も同業者であったので、その家に住
んで一緒に仕事をした。彼らの職業は天幕作
りであった。
18:4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダ
ヤ人やギリシア人を説得しようとした。
18:5 シラスとテモテがマケドニアから下って
来ると、パウロはみことばを語ることに専念
し、イエスがキリストであることをユダヤ人
たちに証しした。
18:6 しかし、彼らが反抗して口汚くののしっ
たので、パウロは衣のちりを振り払って言っ
た。「あなたがたの血は、あなたがたの頭上
に降りかかれ。私には責任がない。今から私
は異邦人のところに行く。」
18:7 そして、そこを去って、ティティオ・ユ
ストという名の、神を敬う人の家に行った。
その家は会堂の隣にあった。
18:8 会堂司クリスポは、家族全員とともに
主を信じた。また、多くのコリント人も聞
いて信じ、バプテスマを受けた。

Bible Reference 聖書の記述

人々は復活については「あざ笑い…」とありますが、これは「肉体は悪」とする教えの影響です。何を語ってもかみ合わず、受け入れてもらえない状況で、パウロは「世界の創造者」という視点から足掛かりを見出したのです。このように「なんとかしていく人かでも救うためです」という熱意があるときには、工夫と可能性が与えられ、「彼につき従って信仰にはいった人たちもいた」のです。

「あの人はかたくなだから」と、伝道をあきらめてしまうのは簡単です。しかしそれがクリスチャンのあり方ではないのです。「なんとかして」「どうしたらいいだろう」と考えるのは、頭脳ではなく、熱心さです。少なくとも祈りは続けながら、神様の導いをもらって従ってみましょう

マケドニア人の幻を見て、神様のみこころを確信してヨーロッパに渡ったパウロたちでしたが、その後は迫害と投獄の連続でした。アテネでも伝道に苦慮し、今度はコリントという物質的繁栄の大都会での伝道です。

コリントは半島のくびれた部分にあり、反対側の海に行くために船を乗り換えるため、多くの人々でにぎわって商業もさかんでした。また街には偶像も多くそこでは売春が行われており、繁栄と堕落の町だったのです。

そこで頼る者もなく宣教するのですから、それは非常に心細い状況です。神様はアクラとプリスキラ夫妻と出あわせてくださり、しかもパウロに仕事のチャンスも与えてくだいました。主が導くなら必ず支えてくださるのです。

今やパウロは使徒であり、伝道牧会の働き人でありますが必要があり働きました。今でも仕事を通して伝道する牧師もいますし、また経済的必要から仕事をする牧師もいますが、いずれも主のよしとするところです。

しかしパウロの使命の優先順位は仕事ではなく直接の神の働きにありました。シラスたちがピリピ教会からの献金を携えて（ピリピ4:15）、マケドニア経由で到着してからは、彼は神の働きに専念したのです。牧師や宣教師がみなその使命に専念できるように祈り、また助けになりたいものです。

また主の助けは目に見えることだけではなく、みことばによる希望と約束でした。「わたしの民がたくさんいるから。」とは何と力強い励ましのことばでしょうか。現代も私たちはこのように語る主のことばを聞く必要があります。またはかつて聞いたこのことばを思い出す必要があるのではないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

4日　金曜

使徒

　18:9 ある夜、主は幻によってパウロに言われた。「恐れないで、語り続けなさい。黙ってはいけない。
18:10 わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」
18:11 そこで、パウロは一年六か月の間腰を据えて、彼らの間で神のことばを教え続けた。
18:12 ところが、ガリオがアカイアの地方総督であったとき、ユダヤ人たちは一斉にパウロに反抗して立ち上がり、彼を法廷に引いて行って、
18:13 「この人は、律法に反するやり方で神を拝むよう、人々をそそのかしています」と言った。
18:14 パウロが口を開こうとすると、ガリオはユダヤ人に向かって言った。「ユダヤ人の諸君。不正な行為や悪質な犯罪のことであれば、私は当然あなたがたの訴えを取り上げるが、
18:15 ことばや名称やあなたがたの律法に関する問題であれば、自分たちで解決するがよい。私はそのようなことの裁判官になりたくはない。」
18:16 そうして彼らを法廷から追い出した。
18:17 そこで皆は会堂司ソステネを捕らえ、法廷の前で打ちたたいた。ガリオは、そのようなことは少しも気にしなかった。

　「恐れないで、語り続けなさい。黙ってはいけない。18:10 わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。」と語られたパウロでしたが、その励ましに反するようにすぐに敵が動きました。
　しかもガイオは総督であって大きなローマ帝国の権威を持つ支配者です。彼の判断は他の洲や属国に影響を与えるものです。このようなとき私たちは、守られると思ったのに神様の力はどうなってるのだ…と失望するかもしれません。しかし神様は大きく確かな計画を持っておられます。
　ガイオは訴え自体を退けました。パウロたちの教えをどう解釈するかは、ユダヤ教内部の問題だというのです。そしてこれにより後の 12 年間は、つまりネロの迫害まではキリストの福音は、ローマ帝国からは妨げられることなく宣教できたのです。
　信じて従ったのに逆の結果になった…ということで失望することもあるかもしれません。しかし、それは神様のすばらしい計画のプロセスですから、不信仰になってしまう前に、もう少し忍耐を持って神様を信頼してみましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

5日　土曜

使徒

Bible Reference 聖書の記述

　18:18 パウロは、なおしばらく滞在してか
ら、兄弟たちに別れを告げて、シリアへ向け
て船で出発した。プリスキラとアキラも同行
した。パウロは誓願を立てていたので、ケン
クレアで髪を剃った。
18:19 彼らがエペソに着くと、パウロは二人
を残し、自分だけ会堂に入って、ユダヤ人た
ちと論じ合った。
18:20 人々は、もっと長くとどまるように頼
んだが、パウロは聞き入れず、
18:21 「神のみこころなら、またあなたがた
のところに戻って来ます」と言って別れを告
げ、エペソから船出した。
18:22 それからカイサリアに上陸してエルサ
レムに上り、教会にあいさつしてからアン
ティオキアに下って行った。
　18:23 パウロはアンティオキアにしばらく
滞在した後、また出発し、ガラテヤの地方や
フリュギアを次々に巡って、すべての弟子た
ちを力づけた。
　18:24 さて、アレクサンドリア生まれでア
ポロという名の、雄弁なユダヤ人がエペソに
来た。彼は聖書に通じていた。
18:25 この人は主の道について教えを受け、
霊に燃えてイエスのことを正確に語ったり教
えたりしていたが、ヨハネのバプテスマしか
知らなかった。
18:26 彼は会堂で大胆に語り始めた。それを
聞いたプリスキラとアキラは、彼をわきに呼
んで、神の道をもっと正確に説明した。
18:27 アポロはアカイアに渡りたいと思って
いたので、兄弟たちは彼を励まし、彼を歓迎
してくれるようにと、弟子たちに手紙を書い
た。彼はそこに着くと、恵みによって信者
になっていた人たちを、大いに助けた。
18:28 聖書によってイエスがキリストである
ことを証明し、人々の前で力強くユダヤ人
たちを論破したからである。

　パウロの誓願はナジル人としてのようです。これは誓願期間中は髪を切らないというユダヤ教の習慣です。パウロがその期間を終えたということでしょう。ユダヤ教の律法や習慣によっては救われないということは明白ですが、神様はそれらを禁止なさったわけではありません。イエス様自身「律法を成就するために」来たと言っておられます。

　パウロはすべてを「福音のために」と考えています。もちろん以前の習慣が妨げとなるなら、拒否するでしょう。しかし福音宣教についての自身の決心とその証しのために、ユダヤの習慣を用いたのです。それは律法から真に自由になった者の在り方です。

　23 節から第三次伝道旅行が記事ですが、パウロの第二次伝道旅行と第三次伝道旅行の間には、ほんの１，２行しかありません。それほど伝道は彼にとって中心的なことだったのでしょう。また教会の歴史にとって重要だったのです。

　パウロとアポロについて記されていますが、ここから学ぶところがあります。パウロはかつて歓迎されたエペソに早く行きたかったでしょうが、ガラテヤやフルギヤを巡っていましたが、その間にアポロがエペソに来て、パウロとはまた違ったタイプの活躍をしたのです。心の狭い人間なら面白く思わないところですが、パウロは違いました。「私が植えてアポロが水を注ぎました」と、互いの働きの必要を認めているのです。

　アポロは雄弁家であって理論家でした。それは「霊に燃えて」とありますから、燃やされるなら感情的に高まるだけではなく、このように論理的な思考によって「信者になっていた人たちを大いに助け（27）」ることができるのです。

　主に用いれている人を、考えややり方が違うからと批判する必要はありません。むしろ違いがあるゆえに感謝して、神様の働きが充実することを喜ぶべきです。エペソの信徒たちも多くはそのように理解していたようです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

6日　日曜

使徒

19:1 アポロがコリントにいたときのことで
あった。パウロは内陸の地方を通ってエペソ
に下り、何人かの弟子たちに出会った。
19:2 彼らに「信じたとき、聖霊を受けました
か」と尋ねると、彼らは「いいえ、聖霊がお
られるのかどうか、聞いたこともありませ
ん」と答えた。
19:3 「それでは、どのようなバプテスマを受
けたのですか」と尋ねると、彼らは「ヨハネ
のバプテスマです」と答えた。
19:4 そこでパウロは言った。「ヨハネは、自
分の後に来られる方、すなわちイエスを信じ
るように人々に告げ、悔い改めのバプテスマ
を授けたのです。」
19:5 これを聞いた彼らは、主イエスの名に
よってバプテスマを受けた。
19:6 パウロが彼らの上に手を置くと、聖霊が
彼らに臨み、彼らは異言を語ったり、預言し
たりした。
19:7 その人たちは、全員で十二人ほどであっ
た。
19:8 パウロは会堂に入って、三か月の間大胆
に語り、神の国について論じて、人々を説得
しようと努めた。
19:9 しかし、ある者たちが心を頑なにして聞
き入れず、会衆の前でこの道のことを悪く
言ったので、パウロは彼らから離れ、弟子た
ちも退かせて、毎日ティラノの講堂で論じた。
19:10 これが二年続いたので、アジアに住む
人々はみな、ユダヤ人もギリシア人も主のこ
とばを聞いた。

Bible Reference 聖書の記述

　ヨハネのバプテスマと、イエスの名によるバプテスマの違いが明確に記されています。すでにこのエペソの人々は信じていましたが、まだ聖霊は受けていないということでした。聖霊によらなければ「イエスをキリスト」と信じることはできせんから、聖霊は働いておられたわけですが、まだ聖霊の満たしがなかったということです。

　このように聖霊の満たしは、コルネリオ一家の場合のように信じたときにすぐに与えられることもあれば、このエペソの人々のように後になって与えられる場合もあります。

　クリスチャンとなって何年してもまだ聖霊の満たしがない人もあり得るのです。また聖霊は満たされ続けなければなりません。聖霊を求めることはイエス様も教えておられます。

　またパウロのように聖霊の満たしを勧める必要もあります。聖霊によって本当の動機と能力があたえられます。互いに聖霊を求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？